

## 「平成 26 年度高知県感染症対策協議会結核対策部会議事録」

日 時 平成 27 年 2 月 24 日（火） 18:30～20:30

場 所 県庁 3 F 第 3 会議室

出席者 部会員 2 名、衛生研究所（安藤所長、松本次長、甲藤主任研究員）健康対策課（福永課長、宮地チーフ、永森）

### 1 結核の発生動向について （平成 26 年高知県の結核）

#### ■ 「平成 26 年高知県の結核」（資料 1）冊子について説明

#### ■ 意見交換

- ・ 潜在性結核感染症治療完了率が低下傾向にある要因としては、肝機能障害や生物学的製剤等、多くの薬剤を服用している等の影響での脱落もあると考えられるが、その他の脱落の理由も確認する必要がある。

### 2 高知県結核予防計画—第 4 次高知県結核根絶計画の内容及び策定スケジュール等について（資料 1、参考資料 1、2）

#### ■ 資料 1、参考資料 1、2 について説明

#### ■ 意見交換

- ・ 計画の項目立てについては、次期計画についても同じ項目立てでいいかと考えているが、大目標等の目標値については、達成できている箇所もあるので、次期計画の目標値の見直しが必要である。
- ・ 国の中間評価では、「結核発生動向調査」について他県でも取り組みが十分できていない状況であり、本県でも同様であるので、今後検討が必要である。
- ・ 基準病床数について、現在、国の計算式に基づいて算出すると、32 床程度になる。他県のように一つの医療機関に集約することもできるが、高知県の地理的な条件から考えると、2 次医療圏毎に必要なと思う。また、集団感染等が起こった時のことも考慮すると、平均的には 30 床程度でもいいかもしれないが、スポット的にはそれを上回ることが想定される。また、新型インフルエンザ等が発生したときのバックアップとしても結核病床は必要なので、国の暫定式 +  $\alpha$  の病床数を確保した方がいいのではないか。
- ・ 合併症への対応等、特に認知症の患者への対応が現在難しく、最終的には、公的な病院での対応をお願いせざるをえないが、他県のようにモデル病床等、今後、次期計画の中で検討していく必要がある。

### 3 平成26年度高知県保健所コホート検討会の報告 (資料2)

#### ■資料2について説明

### 4 その他

(1) 結核医療の基準の一部改正について (資料3、参考資料3)

(2) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部改正について  
(資料4)

(3) 平成26年度VNTR検査報告 (資料5)

#### ■意見交換

- ・VNTR検査については、今現在は、小川培地で検体を保存していて、病院で検査をしているのは、国立高知病院だけなので、国立高知病院のみで実施している。それ以外の医療機関にも協力をお願いしたいが、液体培地での保存や外注している等、現段階だと対応ができない状態である。今後、衛生研究所での液体培地での運搬方法等についても検討が必要である。全国的にも外注している場合の検体の回収をどうするか等について検討課題となっている。
- ・ローカスが一致した場合のその後の対応については、保健所長の判断で調査することにはなるが、もう少し件数が増えてから検討した方がいいのか、また、複数の保健所と関連しているので、一つの保健所だけで動いても分からない部分があるので、連携方法等、結果を受けてからの対応が今後の検討課題である。

前回の部会から今回までに国から示された手引きについて紹介。(参考資料4,5,6)